

情報共有からの地域づくり

伊達地域 集落支援員活動報告（令和5年度）



2024年1月25日

伊達地域 集落支援員 富田 光

これまでの「あらすじ」

市

担当は伊達川東地区です。

何したらいいんだべ。とりあえず皆と話してみっか

地

地元の情報が届かない。協議会って何？て言われるし

広報紙出してみねがい？

地

「広報紙」ってダサぐね？ミニコミならOK

地

町内会の役員選出とか補助金とか皆どうしてんの？

ノウハウ集めて共有すっぺ

地

調整区域なのになんで家建てられんの？

市の専門家に講師頼むべ

地

新規事業つっても、協議会は金も人もねえんだよ

今ここ！

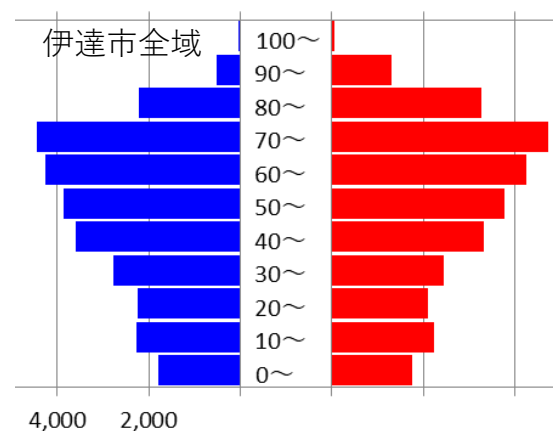
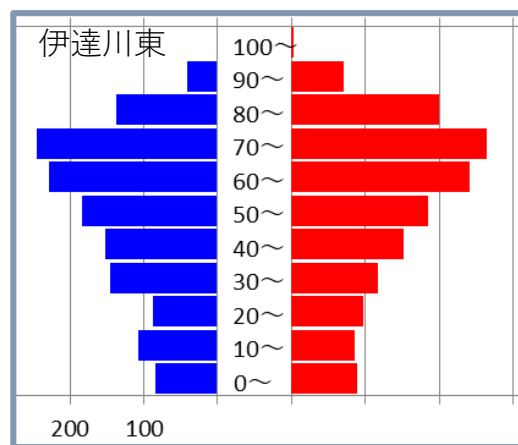
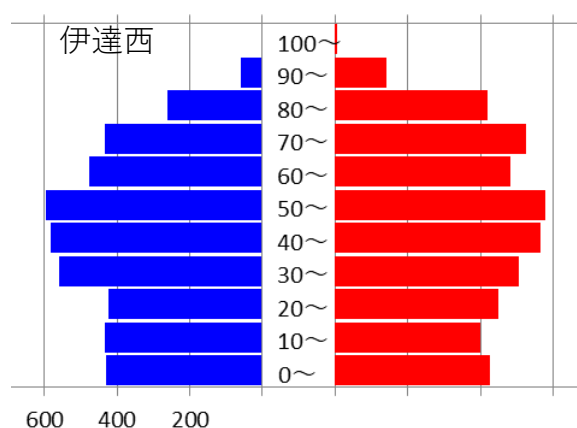


うーーん

伊達川東の特徴：過疎と開発が混在

1 都市計画法的過疎

既存集落の宅地開発ができず高齢者世帯が増加



2 アメーバ的宅地開発

将来構想があいまいな中、なし崩しに家が増える

・法34条11号指定地区

道路・排水路の整備が不十分なまま虫食いのミニ開発
果樹消毒や農業機械の騒音などで不和も発生

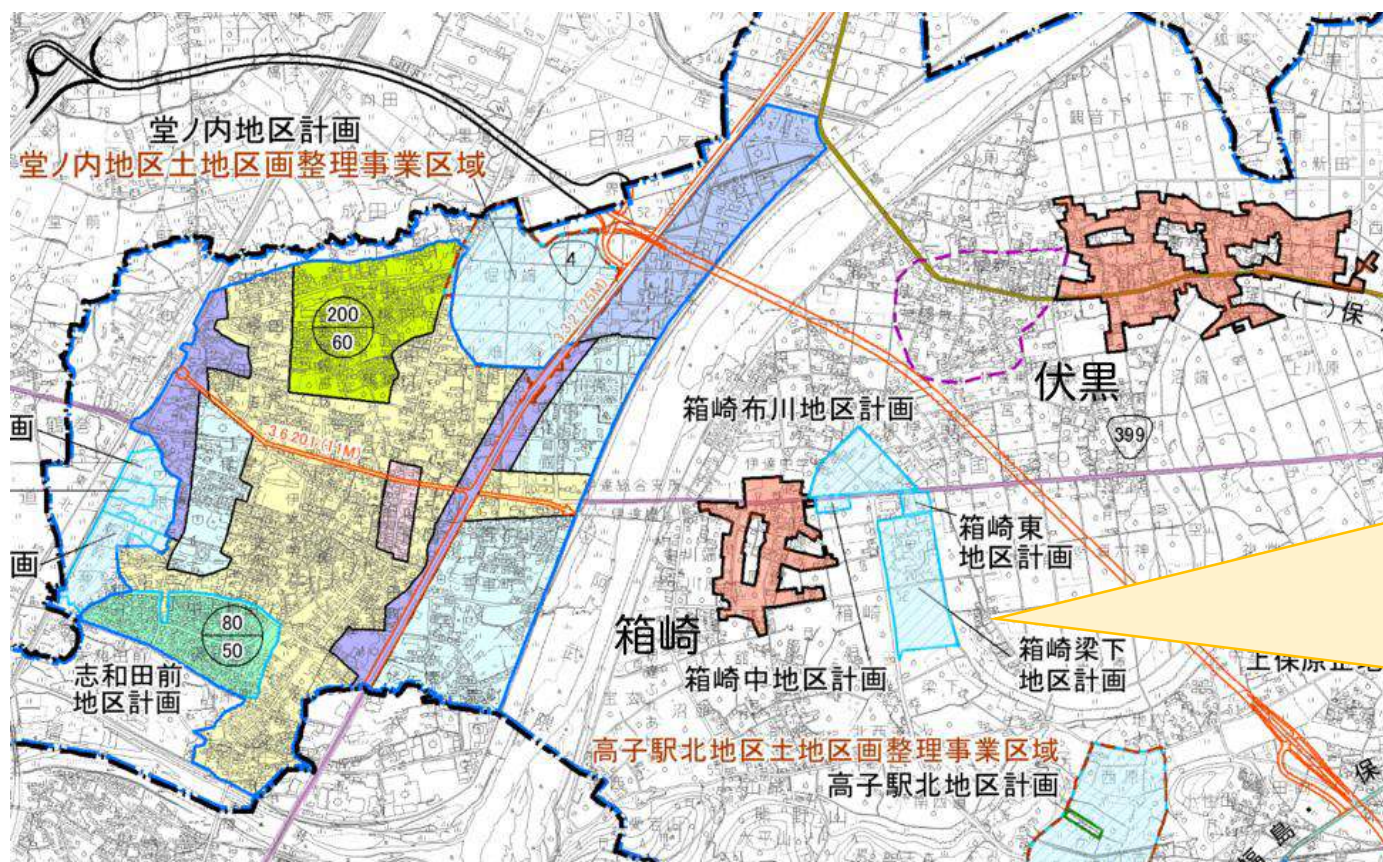
・地区計画による川東399沿道開発

マスタープラン→「果樹園風景や農業生産環境に配慮」??

伊達川東の特徴：旺盛な宅地開発需要

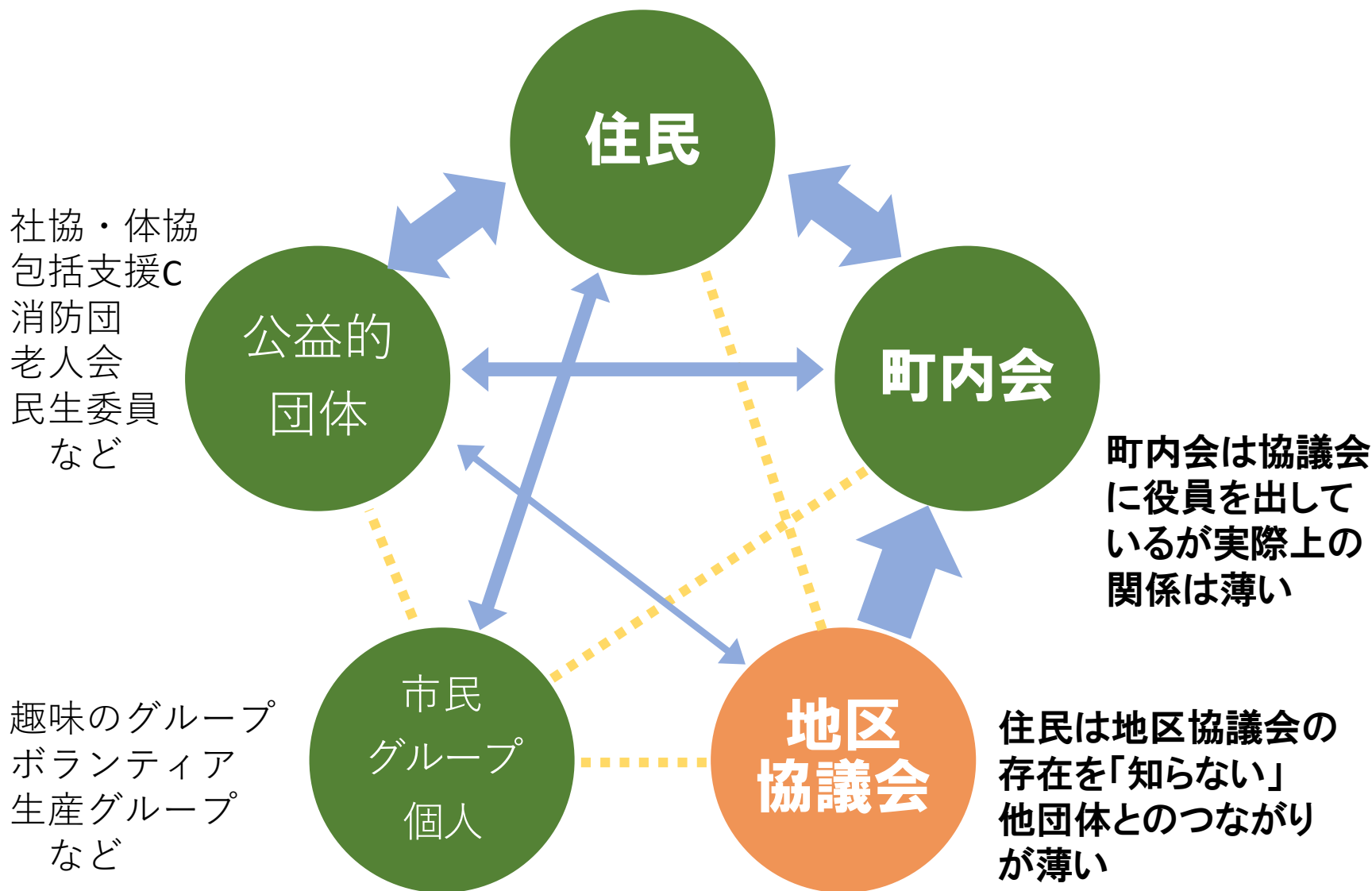
●全域が市街化調整区域なのに宅地開発が進む理由

- ・法34条11号指定地区（箱崎原、伏黒上ヶ戸など → ）
- ・国道399号沿道の開発（箱崎布川団地 など）



箱崎地区は令和4年から人口増に転じた。

問題①：住民・団体と地区協議会



問題② 地区協議会の屋台骨が沈んでいく

国・市が期待する役割

- ・ 新たな共助活動
(集落維持、生活交通、
特産品の販売、etc..)

地区
協議会

- ・ 主な会員は町内会長
多くは2年で交代
- ・ 計画を作ってもPDCA
サイクルを回せない
- ・ 金とヒトが無い

団体の目的以外
には手を出せ
ない

町内会以外
の住民団体

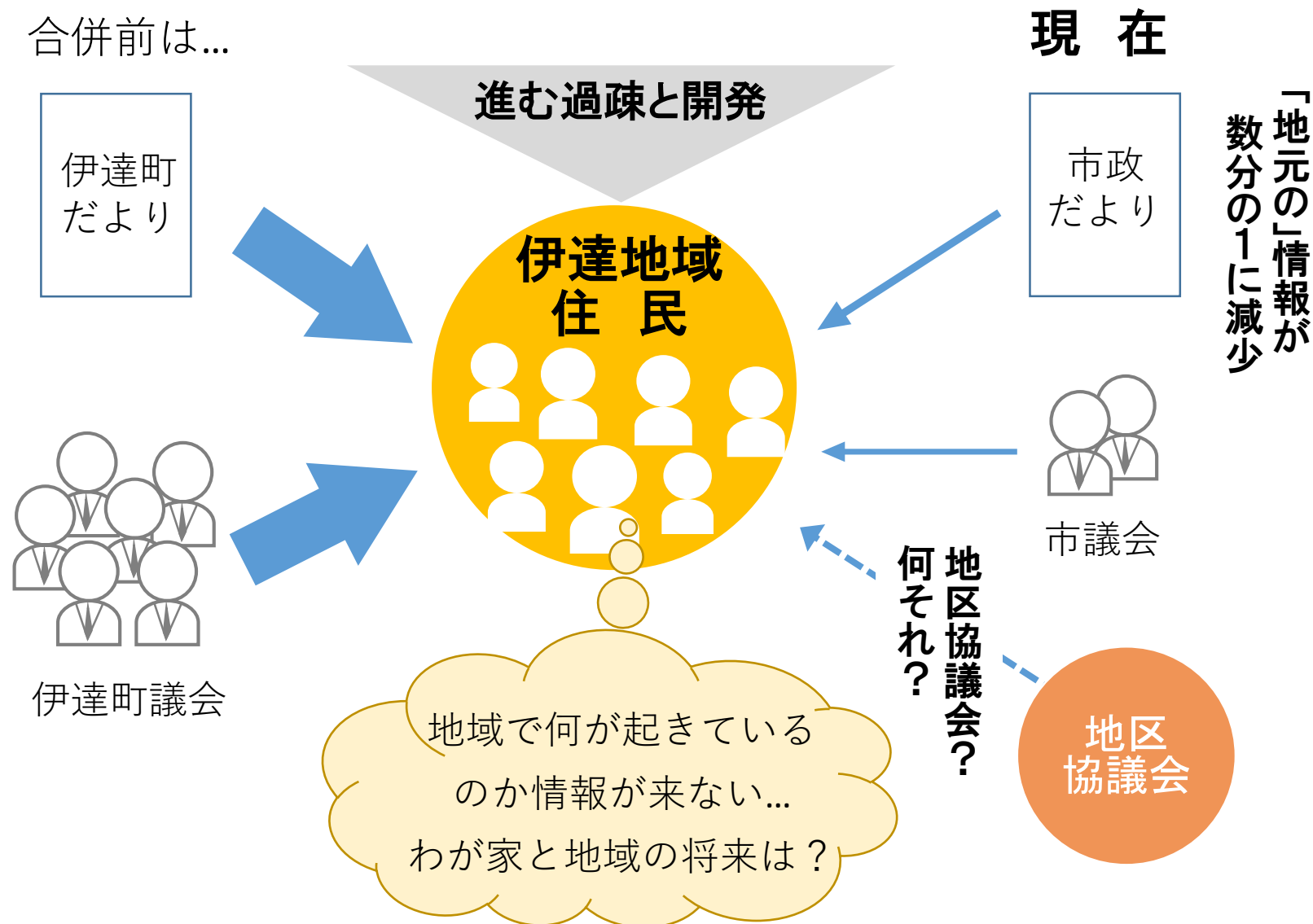
各町内会

- 町内会役員は町内会の
維持だけで精一杯
- ・ 役員の成り手不足
 - ・ 動ける会員の減少

地域住民

高齢化・孤立化
情報不足

問題③ 地元の情報が手に入らない



川東支援の方針：対象と優先順



← 最も基本となる対象

地域の現状と協議会の取組み
を知ってもらう。じっくりと



← 地域・協議会を支える土台

組織運営の効率化
役員のモチベーション向上



← 夢は後で。今できることから

当面は、住民の認知と信頼を
得られる活動をサポート

A-1: 住民への地域ニュース・情報の提供

● ミニコミ紙〈はこふし〉の発行

- ・ 変貌する旧伊達街地域のニュースや協議会活動を掲載
- ・ 発行：伊達川東地区協議会。令和5年8月創刊
- ・ A4カラー8ページ・年4回発行。

「広報紙」
ではない！



A-2: 地域の現状を学ぶ

● 地域の課題について知識を学ぶ場を提供



公開講座：伊達東の土地利用を学ぶ
(主催：伊達川東地区協議会)

B : 町内会の運営支援

1 組織運営のノウハウ・情報の提供

町内の人口動態、使える補助金の紹介、他の町内会の状況の共有など

2 役員のモチベーションの向上 → 今後の課題



町内会長との懇談会（3～4人でフリートーク） 2023/7月

C: 地域課題への協議会の取り組みを支援

●地区協議会が行う地域課題への取り組みを企画・広報面で支援



・しまぎ牧場の悪臭対策

・認定こども園の交通安全対策



・営農と転入住民の不和対策



これからの夢のような話

- ・ 農と住が混在するコミュニティ再構築の一步
- ・ 情報共有からそれぞれの顔の見える相互交流へ
- ・ 住民自身の「地域コントロール感」の醸成
(課題解決が「面白い」という体験)
- ・ 町内会⇔協議会のフレーム外とのつながり

いろんな情報と人のハブになれるか？

ありがとうございました